

# 葉月 愛南文芸

## 菊川俳句会

沙羅咲いて明日香御寺の静まれり  
 日替わりにトッピング変え冷や奴  
 向日葵や兄弟着回すお古かな  
 雲海や俗世を隠し流れゆく  
 雨雫しっとり受けし合歓の花  
 白桃の滴に濡れし手の甘き  
 父の日や母の日よりも下にあり  
 夏空に歌壇の花も水を待ち  
 雑草がよくよく見ればスイカ見え  
 お気に入り広口袖で涼やかに

篠南川柳会

残り物一品作る主婦の知恵  
 飽食と飢餓が同居の地球上  
 人生は苦楽を重ね味が出る  
 腹帯に母となる日を祈願する  
 針や灸金欠病のつぼはどこ  
 目を細め口を開けて針に糸

村尾加都子  
 中川 一喜  
 小野山シマ子  
 長田 高明  
 長田千恵美  
 前田由紀子  
 松本もとお  
 徳岡嗟津喜  
 田中 保美  
 松本 安子  
 国松 幸枝

## さわらび短歌会

真すぐに生きて出世に縁がない  
 嫁入りの針箱今は葉入れ  
 賞味期限過ぎたら都会追い出され  
 味もよし人情も良し器量良し  
 どの写真見てもしかめた顔してる  
 時間かけ品定めする日曜日

谷口千代子  
 田中すみ子  
 芝田 憲蔵  
 木本 清子  
 篠原みち子  
 射場ちづる

「どうかどうか子どもを頼みます」と二十一歳の軍事郵便  
 夢はふしぎ剣道始めし頃の夢老いたる今も少年のまま  
 朝露のつきて陽に光る蜘蛛の巣はたゆまざる労働の結晶として  
 長雨に腐りしトマトを挽ぎ捨てぬ手に持つ籠の重たきまでに  
 咲きそう合歓の下道歩む時優しい気持になれる気のする  
 久しぶりの子は早早と帰りゆく独りにあまる食材残し  
 「さわらび」の短歌誌に載る吾の歌姉に送りて長電話となる  
 介護など受けずに終りにしたきもの緩くなりゆく脳をきたえる  
 在りし日に君が机に仕舞ひをりし朝日歌壇の切り抜きを読む  
 どくだみを干しあし母の偲ぶる琥珀色の茶ほのかに匂ふ  
 ひやむぎの氷からんと音のしてひるの厨のしずかなる夏至



河上 明美  
 澤近 正弘  
 藤井 壘  
 松本マス子  
 扇野八代生  
 水野美代子  
 前田 昭夫  
 岩村千代子  
 前田 充  
 前田 知子  
 安村寿美子

## はじめまして。赤ちゃん。

6月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----



## ご冥福をお祈りします。

6月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	享年
-----	--------	----

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。